

第2章 地区別計画

1 地区別計画とは

<「地区別計画」の特徴>

区内の11 連合自治会・地区社協単位で開催される「地区別計画推進策定委員会」（以下、「地区別委員会」という。）が中心となって、各地区の特徴を活かした「地区別計画」を策定しています。

第3期「地区別計画」は、平成28年度からの5か年間に行う、それぞれの地区の特徴と第2期計画をふまえた各種の目標と、地域課題の解決のための具体的な取組をまとめています。

(1) 地区別計画推進策定委員会について

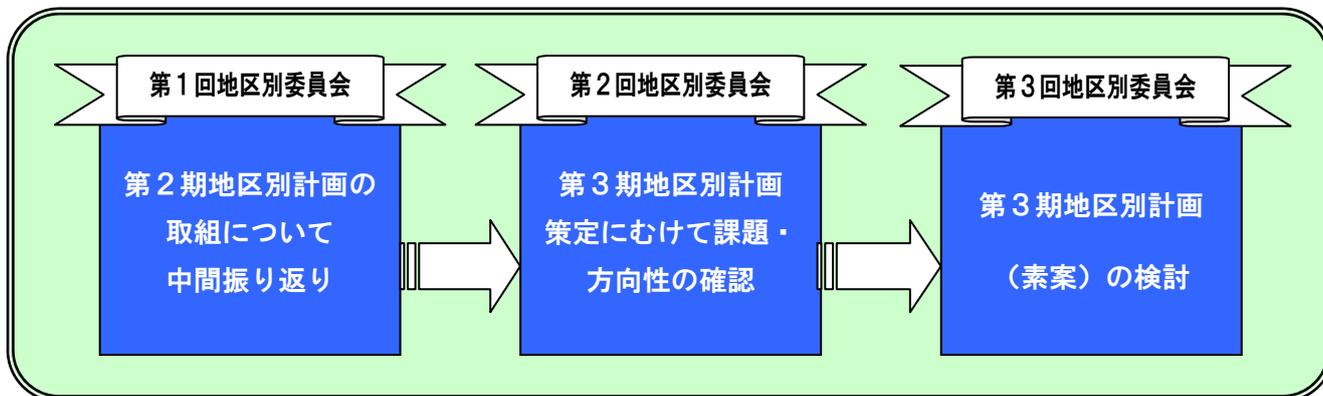
地区別委員会は、連合自治会、地区社協、民生委員・児童委員、保健活動推進員、地域の活動団体の代表者などで構成されています。

既に地域では、自治会活動を中心にさまざまな活動が行われており、担い手の確保や世代間の連携などの共通課題を解決するとともに、地域活動を継続し、団体間の連携をより強化することなどが求められています。

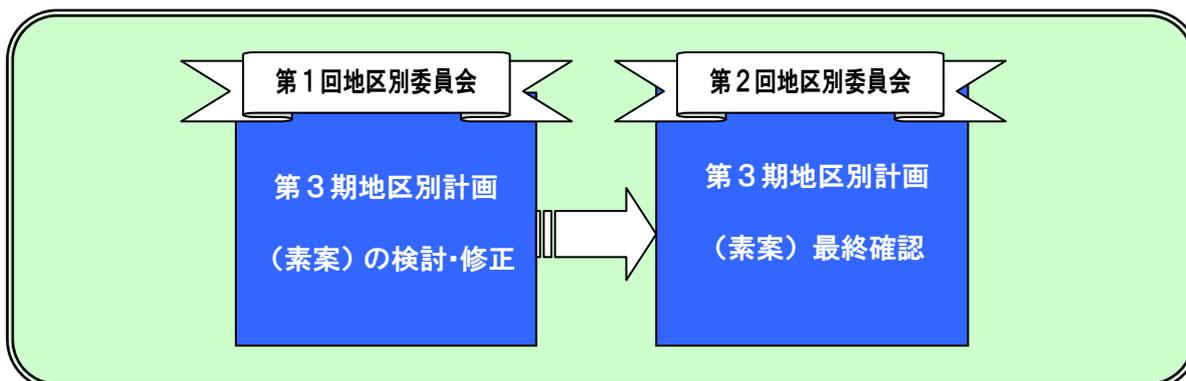
地区別委員会では、そうした地域課題の解決に向けた取組を行うとともに、計画の推進にかかる各種情報の共有や意見交換を行い、地区別計画の目標に向けた地域の取組状況の把握や振り返りを行いました。また、地区別委員会での内容をまとめた「地区別計画推進策定委員会通信」を、各地区2回程度発行し、班回覧等を行いました。

<地区別計画推進策定委員会の標準的な流れ>

【平成26年度】



【平成27年度】

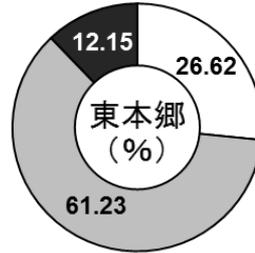


東本郷地区 地区別計画（平成28～32年度）

＜地域＞東本郷1～6丁目、東本郷町

緑区の東端に位置し、地区の東側は港北区、南側は神奈川区、北側は都筑区に隣接しています。北側は平野が広がり一部は農地となっていますが、南側は台地となっており、昭和40年代からの計画的な宅地開発により、戸建てや集合住宅の集まる住宅地となっています。

坂道が多く、最寄りの鴨居駅まで距離がある地域もありますが、平成19年3月に住民の要望によりミニバスが開通し、多くの住民に利用されています。



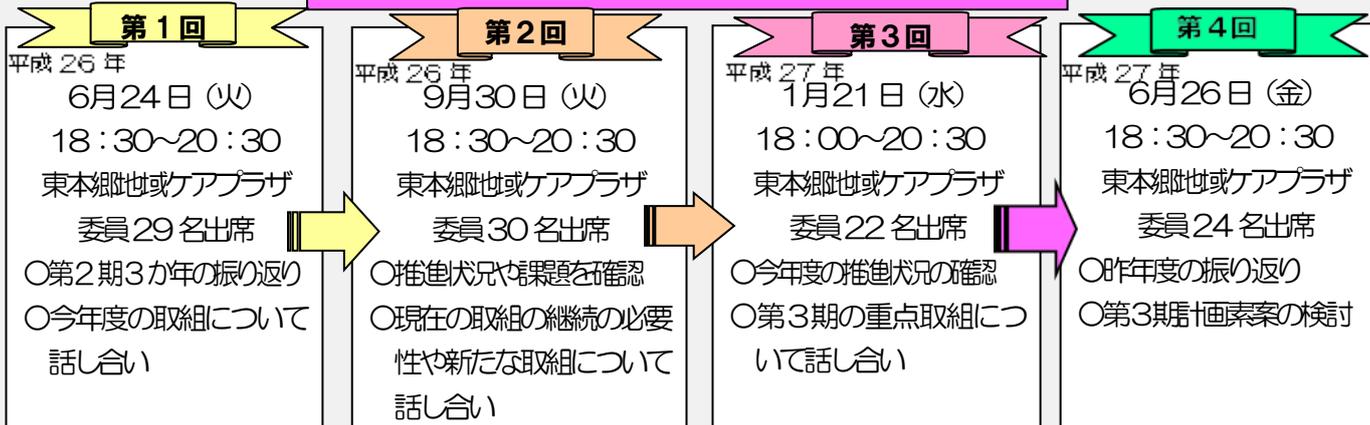
東本郷地区

- 高齢化率 (65歳以上)
- 生産年齢人口比率 (15～64歳)
- 年少人口比率 (0～14歳)

	東本郷地区	緑区
65歳～	3,443人	38,361人
15～64歳	7,920人	114,942人
0～14歳	1,571人	25,377人
合計	12,934人	178,680人

平成26年（2014年）9月末現在

地区別計画推進策定委員会の開催状況



第2期計画では、5つの柱を決め、目標ごとに「現状と課題」及び「具体的な取組」を整理しました。「具体的な取組」は、それぞれの取組主体が中心となって取り組み、「ラジオ体操」、「わんわんパトロール」、「通学時の地域での見守り」などの新たな取組も開始され、着実に推進してきました。

また、重点目標として、推進1年目から取り組んでいる「ひがほん 郷まつり」は、地域と学校が連携した新たな取組として、定着しつつあり、団体間の連携や地域全体での情報共有を進める良い機会になっています。第3期計画においても、引き続き、5つの柱に沿って、取組の充実に向けていきます。

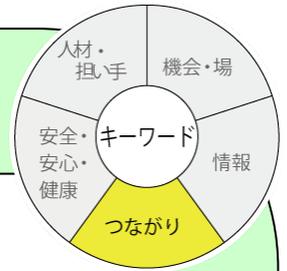
【東本郷地区 地区別計画推進策定委員】



下記の各団体等の代表者で構成しています。（順不同）

- 連合自治会 ● 各自治会 ● 主任児童委員 ● 保健活動推進員会
- 民生委員児童委員協議会（以下「地区民児協」という） ● 友愛活動員
- 地区社会福祉協議会（以下「地区社協」という） ● 環境事業推進委員
- まちづくり協議会 ● スポーツ推進委員 ● 青少年指導員
- 子育てサロン ● 地域防災拠点運営委員会 ● 家庭防災員
- ささえ愛の会 ● みどり養護学校 ● 東本郷小学校
- 東本郷小学校PTA

目標 1

地域の人達がつながり、支え合い、
一緒につどい楽しみを共有できるまち

【現状と課題】

- 「ひがほん 郷まつり」の取組などで世代間交流の機会が徐々に増えてきている。
- 障がいのある人や子育て中の人など、多くの人が地域活動にもっと参加できるようにしたい。
- 地域全体での「挨拶運動」がまだまだ浸透していない。

【具体的な取組】 <参加・交流の機会、居場所づくり>

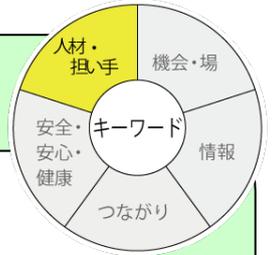
- 「ひがほん 郷まつり」や地域のお祭りの継続・促進と世代間交流の充実（連合自治会、地区社協、小学校・PTA）
- 各自治会間の情報交換や交流の推進（自治会）
- 自治会館等、身近な所でのサロンの開催（友愛活動員・老人クラブ連合会）
- 自治会館・公園・公共施設等を利用した趣味のグループ支援（老人クラブ連合会・自治会）
- ボランティアセンターの運営と送迎・家事等の支援（地区社協）
- 各団体のバス旅行の継続・促進（各団体）
- 食事会懇親会の継続・促進（各団体）
- 高齢者の趣味の集まり・交流の場の常設（各団体）
- 30代、40代の方に参加しやすい場づくり（各団体）
- 大人の昔遊びを通じた子どもとの交流（連合自治会、地区社協、ケアプラザ）
- 老若男女が健康・趣味・スポーツをきっかけに地域活動に参加できるまち（自治会、老人クラブ）
- 学齢期の子どもが集えるオープンスペースの設置（自治会、ケアプラザ）
- 自治会と子ども会の共同イベントの実施（自治会）
- 障がい者やその家族の思いが発信しやすい仕掛けづくりの検討と活動の場の充実（各団体・福祉施設等）
- 一人暮らしの方の緊急時の連絡方法の確立（地区民児協）
- 地場野菜の直売所の常設と配達の検討（地域全体）

【具体的な取組】 <声掛け・挨拶運動>

- 防犯パトロール（わんわんパトロール含む。）とパトロールする人達の交流（自治会）
- 日常的な挨拶運動の推進（地域全体・小学校）
- 児童虐待に対する関心の醸成（区・主任児童委員・ケアプラザ）
- 地域における学童の見守りと声掛けの推進（地域全体）
- イベントや地域活動を通じた顔見知りの関係づくり（地域全体）

目標2

色々な世代の人が地域活動やボランティアに参加しているまち



【現状と課題】

- 新規ボランティアの確保は引き続き課題となっている。
- 小・中学生のボランティアは少しずつ増えているが、ボランティアの高齢化がすすんでいる。
- 自主活動サークルの減少が進み、新規サークルの立ち上げが難しい。 など

【具体的な取組】<新たな担い手の発掘育成>

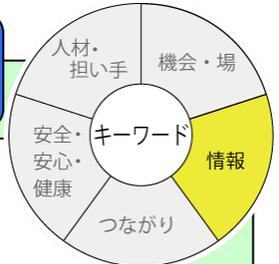
- 自治会等の行事、ボランティアグループの活動に中学生ボランティアの参加促進（自治会、ボランティアグループ）
- PTA 役員卒業者の地域行事やボランティア活動への誘導（各団体・団体）
- 健康づくりのリーダーの育成（ケアプラザ、スポーツ推進委員、青少年指導員、保健活動推進員）
- ボランティアの有償化（地区社協、ボランティア団体）
- 障がい者に対するボランティアの育成（地区社協、ケアプラザ）
- 地域での子育て支援者の養成（地区社協、ケアプラザ）

【具体的な取組】<若い世代の地域参加の促進>

- ちよいボラサポーターズCLUB（小・中学生ボランティア）をはじめとした次世代の人材育成の充実（自治会、地区社協、ケアプラザ、各ボランティア団体、学校）
- 地域全体で子どもたちを育て、若い人が地域活動などに参加できる体制づくり（自治会、地区社協、ケアプラザ、各ボランティア団体）

目標3

地域情報が行き渡り、地域全体で支援が必要な人を見守るまち



【現状と課題】

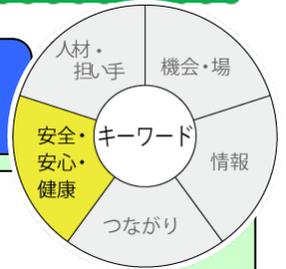
- 地域のイベントや自治会等の周知方法・さらなる情報発信・共有に工夫が必要。
- 見守りが必要な方への支援、関係者や関係機関が密接に連絡できる仕組みづくり。 など

【具体的な取組】<情報共有・ネットワーク>

- 連合自治会だよりの発行（自治会）
- 地区のホームページの充実（自治会・地区社協・地区民児協）
- ケアプラザ情報は全世帯に配布ならびに自治会掲示板に掲示（ケアプラザ）
- ケアプラザホームページ等による空室情報提供の検討（ケアプラザ）
- 新聞販売店、食事配達業者等との安否確認連絡体制の充実（自治会・地区民児協・地区社協・ケアプラザ）
- 一人暮らしや認知症の高齢者、障がい者などを地域全体で見守る体制づくり（自治会・地区民児協・地区社協）
- 一人暮らしや高齢者世帯での買い物支援対策の検討（地区社協、地区民児協）
- ボランティアによる配食サービスの充実（ボランティア団体・地区社協・地区民児協）
- 各自治会間の情報交換の実施（自治会）
- 口コミ、広報紙など複数媒体での周知（地域全体）
- 子育ての情報提供・共有（自治会・地区社協・地区民児協・ケアプラザ・小学校）
- 防犯情報の回覧・掲示等の実施（自治会）
- 民生委員・児童委員と友愛活動員、保健活動推進員の交流（地区民児協、友愛活動員、保健活動推進員）

目標4

身近な所で健康づくりができ、
いつまでも健康に過ごすことができるまち



【現状と課題】

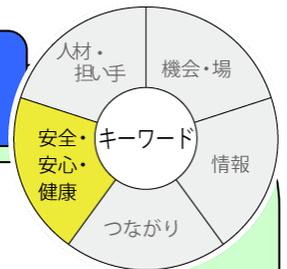
- 健康づくりの機会・場が増えているので、もっと参加者を増やしていきたい。
- 気軽に健康相談できる場がほしい。 など

【具体的な取組】<町ぐるみの健康づくり>

- 公園等でのラジオ体操、地域での体操教室・高齢者向けの健康講座・体力測定会など、介護予防の推進（自治会・地区社協・保健活動推進員、ケアプラザ）
- 健康チェックできる機会の拡大（保健活動推進員）
- 自治会館を活用した様々な活動の推進（自治会）
- 町ぐるみ健康づくり教室の実施（町ぐるみ健康づくり委員会）

目標5

地域全体で防犯・防災に向け取り組み、
安全・安心に暮らせるまち



【現状と課題】

- 防災活動の自主参加が不足している。
- 地域ごとに防犯・防災体制の取組状況に差がある。 など

【具体的な取組】<緊急時に備えた取組>

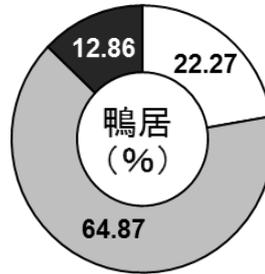
- 防犯パトロールの充実
- わんわんパトロールの充実（自治会）
- 地域における学童の見守りの推進（地域全体）
- 全自治会での防災ささえあいカード・黄色い旗等を活用した災害時支援の取組実施（自治会）
- 家庭防災員活動の充実と地域での情報共有（家庭防災員）
- 防災マップを活用した取組の実施
- 向こう三軒両隣の支援の輪の醸成（地域全体・各家庭）
- 家具の転倒防止対策の実施（各家庭）

鴨居地区 地区別計画（平成28年度～平成32年度）

<地域> 鴨居1～7丁目、鴨居町

緑区の東側に位置し、地区の北側に鶴見川を挟んで都筑区、南側は神奈川区、保土ケ谷区に隣接する南北に長い地区です。地区北部には鴨居駅があり、駅を中心に商店街、医療機関が密集しており、南側には丘陵状に住宅地が広がっています。駅周辺は平地ですが、他は起伏に富む地形となっています。

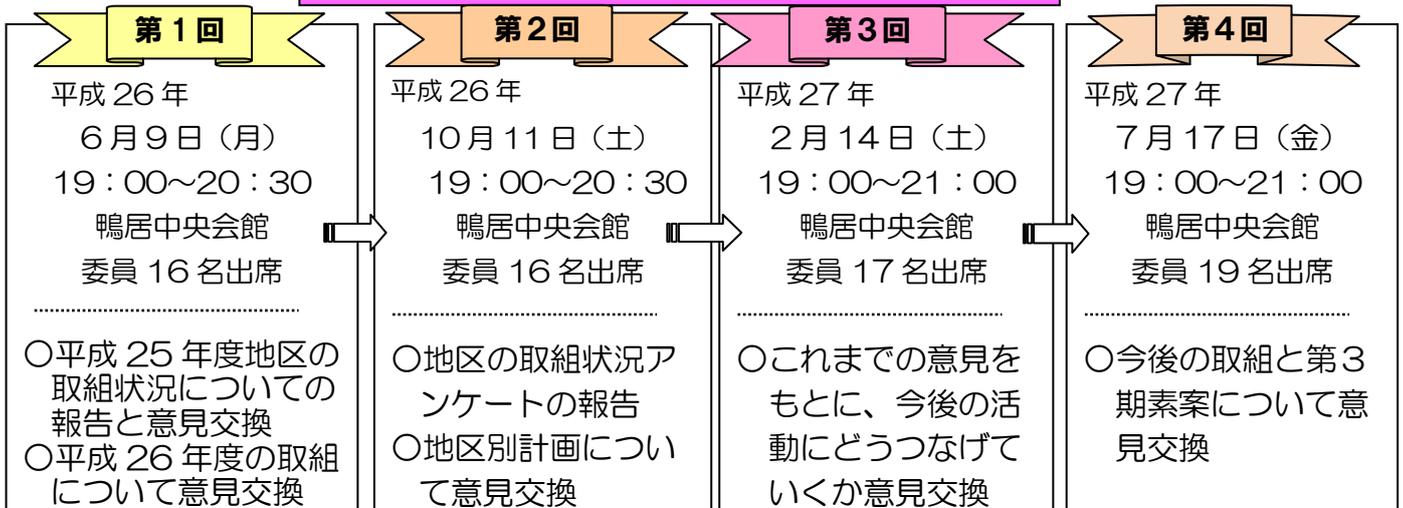
地域ケアプラザをはじめ、障がい者の地域作業所、通所施設など福祉施設が多くあります。



	鴨居地区	緑区
65歳～	3,384人	38,361人
15～64歳	9,857人	114,942人
0～14歳	1,954人	25,377人
合計	15,195人	178,680人

平成26年（2014年）9月末現在

地区別計画推進策定委員会の開催状況



鴨居地区では、防災ささえあいカードの活用や地域交流の情報の発信、自治会が開催するイベント等を通じて地域における担い手、後継者の育成を進めてきました。地区の中ではバラエティー豊かに、さまざまな活動が行われています。地区別計画推進策定委員会で話し合うなかで、黄色いリボンの取組や地域のつながりづくりに向けて、工夫を重ねていることもわかりました。こうした地区の現状を踏まえ、第3期地区別計画では第2期計画を継承・発展させながら、取組を着実に推進していきます。

【鴨居地区 地区別計画推進策定委員】

- 下記の各団体等の代表者で構成しています。（順不同）
- 連合自治会 ●単位自治会 ●保健活動推進員 ●消防団
 - 民生委員児童委員協議会（以下「地区民児協」という）
 - 地区社会福祉協議会（以下「地区社協」という） ●会館運営委員会
 - 地域防災拠点運営委員会 ●おやじの会 ●青少年指導員
 - スポーツ推進委員 ●防犯指導員 ●老人クラブ ●小学校PTA

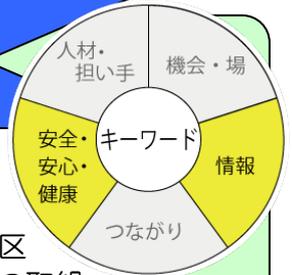


目標1

『安全・安心・健康』のまちづくりのために

【現状と課題】

- 防災ささえあいカードの書式の改善や登録対象者、具体的な利用についての考え方（個人情報に配慮した一覧表の作成等）がまとめられ、連合自治会や地区民児協、地区社協、地域防災拠点で防災ささえあいカードの活用や黄色いリボンの確認についての取組が進められています。
- 鴨居地区の地域防災拠点3か所が連携し、中学生が加わり防災ささえあいカードや緊急時医療情報キットの活用と黄色いリボンの確認についての情報交換が行われています。
- 防災ささえあいカードや黄色いリボンを活用した安否確認の仕組みについて、地区や防災拠点で互いの情報が共有されています。
- 自治会未加入の方に災害時安否確認の仕組みを活用することが難しい状況です。
- ウォーキングイベントや健康チェックなどの健康づくり活動を行っています。

黄色い
リボン

【具体的な取組】

- 防災ささえあいカードを連合自治会、地区民児協、地区社協、地域防災拠点等でさらに活用できるよう検討・工夫します。
（例：書式の改善、鍵の管理等についての確認、個人情報に配慮し活用できるような一覧表等の作成など）
- 鴨居地区の地域防災拠点3か所が今後も連携し、防災ささえあいカードの活用方法、中学生の参加や緊急時医療情報キットの活用について情報交換します。
- 防災ささえあいカードを活用した安否確認の仕方や黄色いリボンの確認の仕方について、それぞれの地区や拠点の取組状況の情報を収集・共有し、良いやり方をお互いに取り入れる工夫をします。
- 自治会への加入率向上と災害時安否確認の仕組みについて周知をすすめます。
- 健康づくりへの関心を高め、各種イベントの参加者を増やします。

目標2

地域での『つながり』を大切にし、
地域における後継者を育成するために

【現状と課題】

- 各地区で地域住民にわかりやすい情報発信が工夫され、鴨居の魅力を知ってもらえるようなイベントの情報交換や取組が活発に行われることにより、地域イベントへの参加者が増え、その中から担い手や後継者が育ってきています。
- 郷土芸能や「いきいきサロン鴨居」、「タどきサロン」など、多世代を巻き込めるような工夫をした取組が行われています。



【具体的な取組】

- 各単位自治会で行っている、鴨居の魅力を知ってもらえるような取組やイベントについて情報交換し、お互いの工夫やアイデアを共有します。さらに、班回覧の方法やチラシの工夫など、住民にわかりやすいようにイベントや取組を周知します。
- 「いきいきサロン鴨居」、「タどきサロン」など、地域の居場所・つながりの場づくりの取組を継続します。地域で開催する様々なイベント等を企画・運営できる人材を育成するため、負担を軽減し、楽しさを味わえるような地域活動へのかかわり方や役割分担の仕方の工夫をします。
- イベントの担い手の公募など新たな手法を検討します。

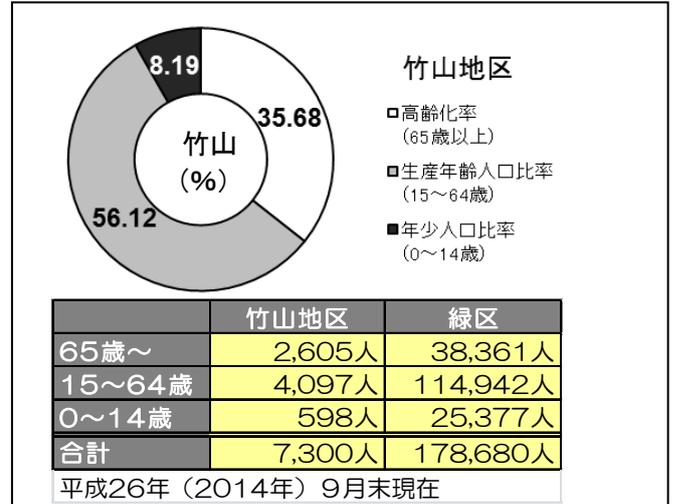
竹山地区 地区別計画（平成28年度～平成32年度）

<地域> 竹山1～4丁目

緑区の南側に位置し、地区の南側は保土ヶ谷区に隣接しています。

昭和40年代に開発された竹山団地が中心にある丘陵地の住宅街です。この地区は、竹山中公園、竹山二丁目公園、竹山南公園等をはじめ、緑豊かな街並みが続きます。

緑区の中では最も高齢化が進む一方で、年少人口比率が最も低い地区です。



地区別計画推進策定委員会の開催状況

第1回

平成26年6月11日（水）

19:00～20:30

竹山ホール

推進策定委員 25名出席

- 竹山地区別計画推進3か年の振り返り
- 今年度の取組と今後に向けて各団体から活動状況報告
- 意見交換

第2回

平成26年12月3日（水）

19:00～20:30

竹山ホール

推進策定委員 21名出席

- グループワーク
- ・竹山の現状と課題について
- ・課題解決に向けて自分たちで取り組めそうなこと

第3回

平成27年6月4日（木）

18:30～20:00

竹山ホール

推進策定委員 22名出席

- 26年度の振り返り
- 第3期竹山地区別計画素案について
- 今年度の取組について

竹山地区では、「ボランティア参加等の仕組みを整えます」、「知りたい情報を知らせる工夫に取り組みます」、「世代間・活動団体間の交流を進めます」の3つの目標に向けて、さまざまな団体が活動し、第2期計画に取り組んできました。

少子高齢化が進むなか、竹山のまちの魅力をいかし、夏祭りなどの世代間交流イベントの開催や、ふれあいサロン「竹多久」の開所などを進めてきました。

「竹山地区別計画推進策定委員会」では、第3期計画策定に向けて話し合い、地域のつながりを意識し、これまでの取組をさらに発展させていきます。



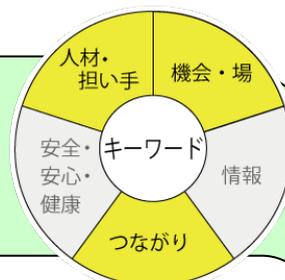
【竹山地区 地区別計画推進策定委員】

下記の各団体等の代表者で構成しています。（順不同）

- 連合自治会
- 単自治会
- 地区社会福祉協議会
- 民生委員児童委員協議会
- 保健活動推進員

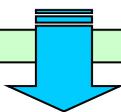
目標1

ボランティアの取組を充実します



【現状と課題】

- 竹山地区では、平成21年に開設したボランティアセンターをはじめ、高齢者向けの食事会など、さまざまなボランティア活動が活発に行われています。
- ボランティアセンターでは、電球交換や包丁研ぎなど身近なお手伝いを行っており、好評です。
- ボランティアセンターの利用者や登録者が固定されてきており、依頼が減ってきています。
- 高齢化が進むなか、今後はさらに隣近所の助け合いが大切になっていきます。

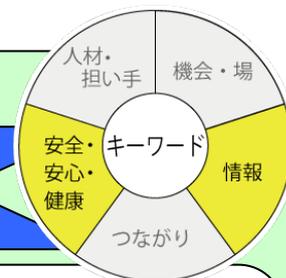


【具体的な取組】

- 各種広報でボランティア利用者の経験談や、お手伝いできるメニューを紹介するなど新たな活動・利用を呼びかけ、ボランティアセンターのPRをしていきます。
- ボランティア参加者を増やすため、活動内容・場所・時間などの情報を具体的にして募集します。
- 隣近所の助け合いに向けた仕組みづくりをすすめます。
- 気軽に参加・利用しやすい仕組みについて検討し、ボランティアセンターに、気軽に入りやすいような雰囲気づくりを行います。

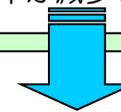
目標2

知りたい情報を分かりやすく伝えていきます



【現状と課題】

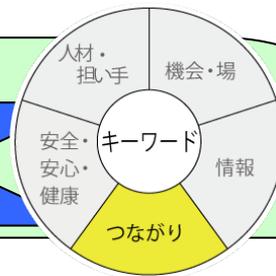
- 広報「たけやま」をはじめ、自治会ごとの広報誌などさまざまな広報誌を発行しています。
- 若い世代に地域行事や活動を知ってもらうために、ホームページを開設しました。
- 東日本大震災を受けて、23年から「防災ブック」3種類（No.1 減災対策・初動対応、No.2 被災生活・復興対策、No.3 個人にできること）を作成・配布しました。
- 情報発信ルートの基本となる自治会の加入率が減少しています。



【具体的な取組】

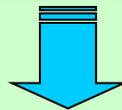
- 活動の事例をまとめて、いつでも情報提供出来るようにします。
- ホームページなどを活用し、我が町PR、竹山地区の良さや行事を伝えていきます。
- 年間スケジュールや活動内容、メンバー募集等、活動の一覧表をつくります。
- 紙媒体での情報発信の継続や、イラストや文字の大きさなど、見やすさを工夫します。
- 防災ささえ愛カードなどの取組を通じて、データベースを更新し、平常時も含め、必要な時にいつでも情報が取り出せるようにします。また、災害時の連絡体制を検討します。
- 自治会の役員の負担などを見直し、自治会加入のメリットをPRしていきます。

目標3

世代間・活動団体間の
交流を進めます

【現状と課題】

- 連合や各丁目自治会による盆踊りや餅つきなどで世代間交流が進んでいます。一方で、自治会単位のイベントへの子どもの参加者が減っています。
- 各丁目のイベントに、他丁目からも参加し、地域住民の交流の場となっています。
- 平成23年に開所したふれあいサロン「竹多久」は、地域住民がお茶を飲んで集える場所や「元気づくりのひろば」としても、地域で定着してきています。
- 竹山は転入してきた高齢世帯には住みやすいまちであると好評ですが、一方で子育て世帯が減ってきています。



【具体的な取組】

- 美化活動などを利用した地域交流に加え、緑地や池など竹山の魅力をいかして、親から子どもや孫の世代まで来てもらえるようなイベントを開催します。
- 夏祭りや餅つきなど、親子で参加しやすいイベントを継続していきます。
- 課外授業などを通じた学校との連携をより進めていきます。
- 気軽に集えるふれあいサロン「竹多久」を、多世代交流の場や、健康づくりの場として、より地域で活用していきます。
- 青少年指導員・スポーツ推進委員の協力を得ながら、多くの人が集まる楽しい企画を考えます。
- 自治会役員等の地域の担い手に加えて、若い世代をはじめとした新しい人が参加しやすくなるように、実行委員会形式によるイベントの企画や開催をさらに進めます。

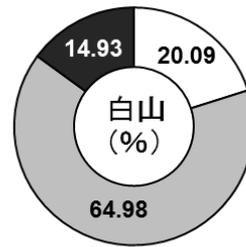
白山地区別計画推進策定委員会

白山地区 地区別計画（平成28年度～平成32年度）

<地域>白山1～4丁目

緑区の東方に位置しており、地区の南側は旭区、北側は都筑区に隣接しています。北側には鶴見川が流れています。横浜線沿いの地区西側には白山ハイテクパーク（産業団地）、市営バス車庫、東側には高層マンションが建っています。道路沿いに企業、商業施設等が並んでいます。

また、南側に向かって丘陵状になっており、計画的に整備された戸建中心の閑静な住宅地が広がっています。



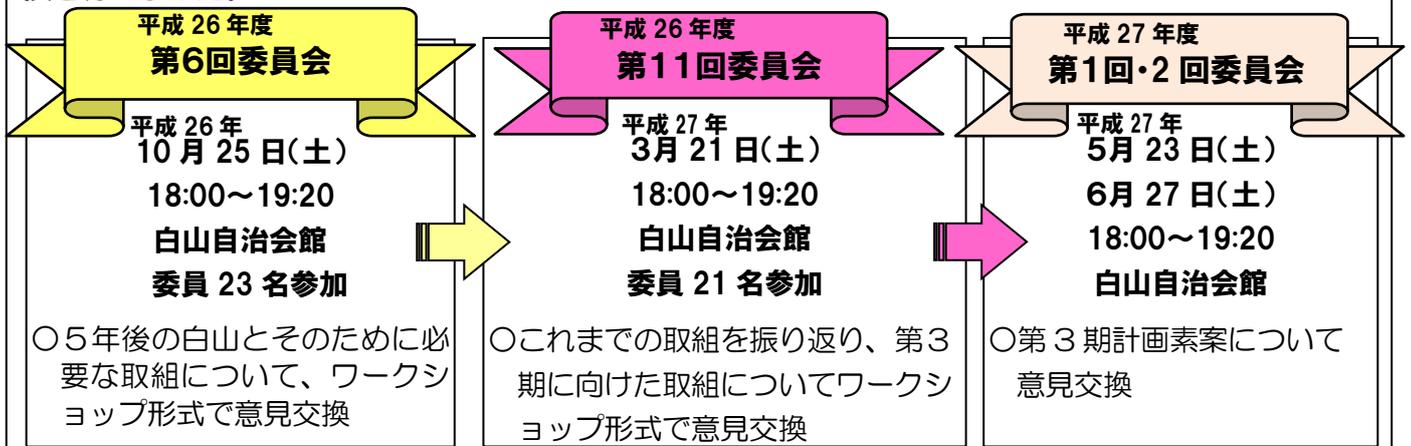
白山地区
 □高齢化率 (65歳以上)
 ■生産年齢人口比率 (15～64歳)
 ■年少人口比率 (0～14歳)

	白山地区	緑区
65歳～	2,172人	38,361人
15～64歳	7,027人	114,942人
0～14歳	1,615人	25,377人
合計	10,814人	178,680人

平成26年（2014年）9月末現在

地区別計画推進策定委員会の開催状況

平成26年5月から毎月第4土曜日（原則）に推進策定委員会を開催し、各団体の取組状況を共有しました。第3期計画策定に向けては、今後の取組に向けた検討を行い、地域の現状や課題について意見交換を行いました。



白山地区は「安全・安心なまちづくり～新しいコミュニティの醸成～」を理念に、毎月地区別計画推進策定委員会を開催してきました。「防災」「防犯」「福祉」「子どもの健全育成」「環境」の5つを目標として、それぞれの活動を進めています。

第3期は、第2期の振り返りと意見交換で出されたいくつかの課題について、「活動が住民の中にさらに根付くには、どうしたらよいか?」「活動の新たな担い手をどう確保するか?」などの視点で検討し、さらなる取組の推進を目指します。

【白山地区 地区別計画推進策定委員】



- 下記の各団体等の代表者で構成しています。（順不同）
- 連合自治会
 - 各自治会
 - 地区社会福祉協議会
 - 消費生活推進員
 - 連合子ども会
 - コガモひろば
 - 民生委員・児童委員
 - スポーツ推進委員
 - 青少年指導員
 - 保健活動推進員
 - 白山配食サービスわかば会
 - いちえ会
 - グループホーム森の泉
 - 白山グリーンクラブ
 - 老人会
 - 白山シニア会
 - 防犯指導員
 - 防災企画委員
 - 環境事業推進委員
 - 緑小学校PTA

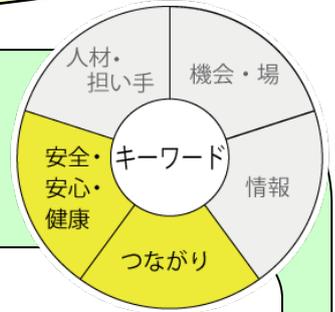
全員参加による

白山地区計画理念

安全・安心なまちづくり ~新しいコミュニティの醸成~

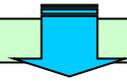
目標①防犯

地域の防犯力を高めよう



【現状と課題】

- 防犯パトロールは、自治会ごとにとり組状況が違い、実施していない自治会もある。
- ウォーキングすることで健康づくりにもなるので、防犯パトロールをする人が増えるとよい。
- あいさつ運動による顔の見える関係づくりが防犯活動の第一歩ではないか。
- 誰もが気持ちよく暮らせる環境をつくりたい。防犯にも効果がある。



- 日頃から声をかけあうことで、安全・安心のまちづくりを実践していきます。
- 新しいメンバーの加入をめざし、イベントなどで声をかけあいます。

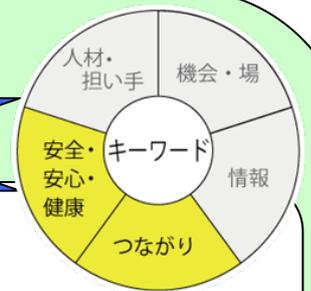
～具体的な取組～

- ◆誰もが気軽に参加できる防犯パトロールの仕組みを作り、地域全体で実践する
- ◆パトロール活動に参加するメリットとして、健康づくりにも役立つことなどをPRし、より多くの参加者を募る
- ◆緊急の防犯情報を、地域で迅速に共有できる体制づくりを行う



目標②防災

自助・共助・近助の力を育もう



【現状と課題】

- 災害時に支援が必要な方（障がい者や認知症など）の対応をどのように検討していくか。自治会としてはどの人が要援護者がわからない。
- 各自治会の防災力を向上させていく必要がある。
- ささえあいカードの情報は自治会の担当ごとによっておきたい。顔の見えるまちづくりが必要。

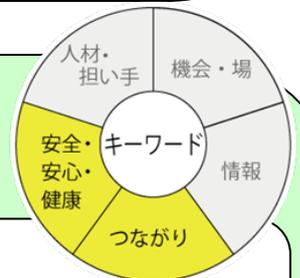
- どこでも、いつでも、だれとでも、あいさつを交わし合い、一人一人が顔の見える関係、日頃から声をかけ合える関係を作りながら、いざという時のために備えます。
- 同じように各自治会や団体同士もつながり合い、顔の見える関係づくりを目指します。

～具体的な取組～

- ◆あいさつし合うコミュニティから共助・近助を育てていく
- ◆災害時に支援が必要な方にも配慮した、拠点運営を検討する
- ◆より多くの方が防災訓練に参加できるように周知する
- ◆最低限必要な避難グッズリストを作るなど、災害に備えた地区の基準を作る
- ◆防災訓練実行委員会が地域の皆さんの意見を取り入れ、防災訓練をより実践的なものに進化させていく

目標③福祉

孤立化を防ごう



【現状と課題】

- 顔の見えるまちづくりが必要。自治会の交流も役員だけの交流になっていないか。
- 高齢者は、地域で何らかの機会をつくらないと、孤立してしまう危険がある。
- 敬老会をはじめ、元気な高齢者に会長になって欲しいが、なかなか担い手が出てこない。

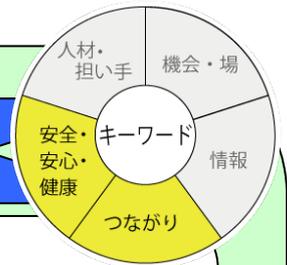
- 住民一人一人が顔の見える関係、日頃から声をかけ合える関係になれるような「場」や「仕掛け」を作っていきます。
- 近助をめざして、知り合いが増えていくコミュニティを作ります。

～具体的な取組～

- ◆自治会内でのイベントを企画するとともに、情報の集約や周知について、具体的に検討する
- ◆お食事会、お茶のみサロン、配食サービスを充実させていく
- ◆自治会に加入していない高齢者にも積極的に声かけを行う
- ◆防災訓練を通して、要援護者を把握していく
- ◆地域での人材コーディネートの仕組みづくりを検討する
- ◆大人から率先してあいさつし、顔の見える関係づくりのきっかけにしていく

目標④子どもの健全育成

子育てしやすい地域づくりをめざそう



【現状と課題】

- 子ども会に加入しない理由には、役員になりたくないからという理由が多い。活動に参加してもらえるようなきっかけをつくりたい。
- 若い人が多く活気に満ちているが、横のつながりが薄いところもある。地域行事に参加する人も限られていて「まちづくり」の意識に温度差がある。(赤ちゃんがいる世帯が参加しづらいのではないか。)



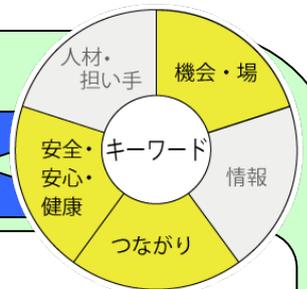
- 地域の中で子育てできるコミュニティを作ります。
- 日頃からあいさつを交わし、子どもたちの育ちを見守ります。

～具体的な取組～

- ◆毎日、率先して大人も子どももあいさつする
- ◆子育てサロンを継続する
- ◆子ども会の役員負担を軽減できるような仕組みづくりを検討する

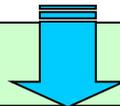
目標⑤安全・安心を支える環境

地域の環境課題に取り組もう



【現状と課題】

- 子どもがマンションのエントランスで夜中まで騒いだり、ごみを散らかすことがある。
- コンビニや道路にごみが落ちている。汚い町が非行を誘発するのではないか。
- ごみの不法投棄やたばこのポイ捨てが地域の中で起こっている。



- 緑豊かな環境を作るとともに、コミュニティの醸成をめざします。
- 防犯にも役立つごみのない環境作りをめざします。

～具体的な取組～

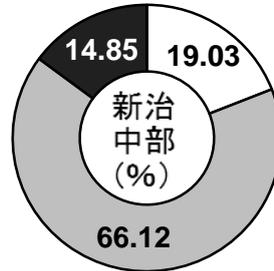
- ◆花のお世話活動の継続
- ◆自治会内でのイベント（掃除や草むしりなど）を事前に周知する
- ◆清掃活動をとおして、住民間・団体間の連携を深める

新治中部地区 地区別計画（平成28年度～平成32年度）

<地域>中山町、上山1～3丁目、寺山町、森の台、台村町

明治41年横浜線開通と同時に中山駅が開業し、駅周辺に市街地が形成されました。現在も中山駅を中心に緑区総合庁舎や警察署などの行政機関、福祉保健施設があり、駅前には商店街などの商業施設があります。また、横浜市営地下鉄グリーンラインが平成20年3月開通しました。

一方、南側には県立四季の森公園や長坂谷公園があり、緑豊かな環境となっています。



新治中部
 □高齢化率 (65歳以上)
 □生産年齢人口比率 (15～64歳)
 ■年少人口比率 (0～14歳)

	新治中部地区	緑区
65歳～	6,294人	38,361人
15～64歳	21,864人	114,942人
0～14歳	4,910人	25,377人
合計	33,068人	178,680人

平成26年（2014年）9月末現在

地区別計画推進策定委員会の開催状況



新治中部地区では、「防犯・防災に強い、安心できるまちにしたい」、「次世代につながるまちにしたい」を目標に、第2期新治中部地区別計画を推進してきました。目標の推進に向け、「防災マップ/防災シート」の作成や「防犯キャッチフレーズ」の募集などさまざまな取組が行われています。第3期新治中部地区別計画の策定にあたり、新治中部地区別計画推進策定委員会の中で第2期計画の振り返りを行い、新たな課題として地域の高齢化、情報の共有化などがあげられました。

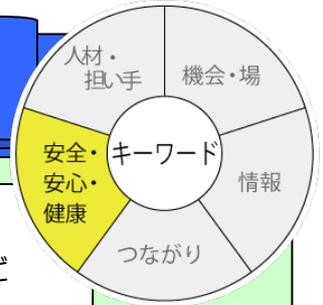
〔新治中部地区 地区別計画推進策定委員〕



- 下記の各団体等の代表者で構成しています。(順不同)
- 連合自治会 ● 単位自治会 ● 地区社会福祉協議会
 - 民生委員児童委員協議会 ● 保健活動推進員
 - 老人クラブ ● 中山食事会 ● 中学校 ● 小学校

目標1

防犯・防災に強い、安心できるまちにしたい



【現状と課題】

- 「防災マップ／防災シート」の全戸配布、「防犯キャッチフレーズ」募集の取組などにより、防災意識が高まりつつあります。
- 防災関連で地域防災拠点の運営委員会役員以外の交流があまりありません。
- 高齢化が進んでいるなかで、災害時などの情報の共有方法に懸念があります。
- 地域防災拠点などと連絡を取り合う仕組みが確立されていません。

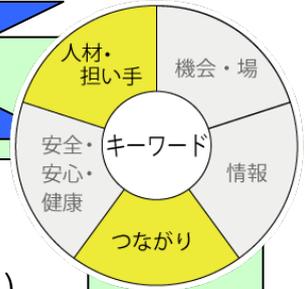


【具体的な取組】

- 「防犯キャッチフレーズ」のように小・中学校と連携して啓発できる取組を検討・継続していきます。
- 「食事会」や「バスハイク」、「健康づくり教室」などを継続して行い、発災時に「自助・共助・近助」といった隣近所のつながりをつくれる取組を工夫します。
- 地域防災拠点間の連携や情報の共有化ができる仕組みを工夫します。
- 子どもやその保護者にも防災訓練等の地域活動に参加してもらえよう、小・中学校からも地域情報（防災訓練やイベント等）を提供していきます。

目標2

次世代につながるまちにしたい



【現状と課題】

- 地域活動の担い手が不足、隣人とのつながり希薄化しているのが課題です。
- 防犯パトロールの実施や地域ボランティアへの参加などを行い、団塊世代等、幅広い世代に働きかける取組や定期清掃の実施など、人と人のつながり意識しています。

【具体的な取組】

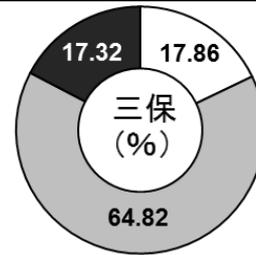
- あいさつ運動を通じて、「向こう三軒両隣」で挨拶ができるような、顔の見える関係を築きます。
- 自治会活動や地域イベントにより、隣近所の付き合いを促進します。
- ふれあいフェスティバルなど、小・中学生をはじめ、多くの人に参加・協力できる取組を検討します。
- 連合自治会を中心に、自治会相互の情報共有を行い、自治会活動の協力を継続します。
- 定期清掃や学校・家庭・地域連携事業（ボランティア清掃、花いっぱい活動、盆踊り・金曜パトロール等）により、人と人の顔の見える関係を築いていきます。

三保地区 地区別計画（平成28年度～平成32年度）

<地域>三保町

緑区の中央に位置し、地区の南側は旭区に隣接しています。北側約半分には、いくつかの集合住宅と既存の住宅など、住宅地が広がっています。南側には「三保市民の森」など広大な緑地が残されていますが、ここ数年間で開発が進み、住宅が増えています。

また、特別養護老人ホームなどの高齢者施設が多くあります。



三保地区

- 高齢化率 (65歳以上)
- 生産年齢人口比率 (15～64歳)
- 年少人口比率 (0～14歳)

	三保地区	緑区
65歳～	2,658人	38,361人
15～64歳	9,646人	114,942人
0～14歳	2,578人	25,377人
合計	14,882人	178,680人

平成26年（2014年）9月末現在

地区別計画推進策定委員会の開催状況

第1回

平成26年
7月15日（火）
18：30～20：30
三保町自治会館
委員32名出席
○第2期計画3か年の振り返り
○今後の取組について

第2回

平成26年
11月22日（土）
13：00～14：45
フォレストハウス
委員24名出席
○活動報告
○第3期計画に向けた取組について

第3回

平成27年
3月13日（金）
19：00～20：30
三保町自治会館
委員28名出席
○推進状況の確認
○第3期計画の目標や具体的取組について

第4回

平成27年
6月20日（土）
14：00～15：30
三保町自治会館
委員35名出席
○第3期計画の素案の検討
○今後の取組について

第2期計画では、「地域でのつながりを大切にしたい」、「落ち着いて活動できる活動拠点を増やしたい」、「イベント情報等を地域で共有したい」の3つを目標に、「地域活動マップ／防災マップ」の作成など、さまざまな活動に取り組んできました。

第3期計画では、第2期計画をベースにしなが、担い手確保や若い世代の参加促進、活動拠点の確保、情報発信の工夫、地域防災力の充実などを目指し、課題解決に向けさらに取組を充実・発展させていきます。

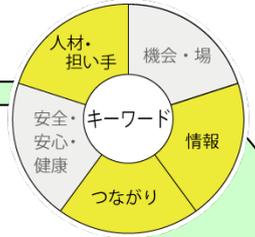
【三保地区 地区別計画推進策定委員】

下記の各団体等の代表者で構成しています。（順不同）

- 地区社会福祉協議会 ●連合自治会 ●単位自治会
- 民生委員児童委員協議会 ●保健活動推進員
- 消費生活推進員 ●青少年指導員 ●スポーツ推進委員
- 老人クラブ連合会 ●防犯指導員 ●少年補導員
- 連合子ども会 ●ボランティアみほ ●隣友会
- 三保おやじ団 ●友愛活動員 ●小学校 ●小学校PTA



目標1

地域でのつながりを大切にし、
活動を活発にしたい

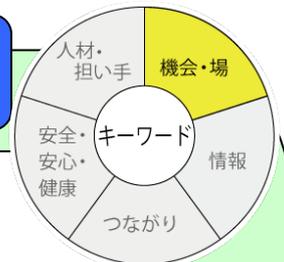
【現状と課題】

- 多くの団体がさまざまな活動を行っているが、参加する人が限られている。もっと大勢の人たちに知ってもらい、参加者を増やしたい。
- 地域での子育て活動の継続が難しい。多くの親子が参加し、交流できる機会を増やしたい。
- 自治会や各団体の担い手が増えない。活動が地域全体に知られていない。
- さまざまな年代の人たちが交流できる機会や場が少ない。
- 地域の「つながり」を深め、高齢者や子育て中の人などの「見守り」を進める必要がある。
- 犯罪が増えている。子どもが多い地域なので、犯罪などに巻き込まれないか心配である。

【具体的な取組】

- 「健民祭」・「ウォークラリー」・「子どもフェスタ」は地区の3大イベントとして、各団体が連携して取り組み、地域の「つながり」づくりを広めたい。〈継続〉
- 地域活動に気軽に楽しんで参加できるようにして、活動に関わる人を増やしていきたい。〈新規〉
- 小学校での「ふれあい給食」・「昔遊び」は多世代交流の場として、継続・発展させたい。〈継続〉
- 地域のイベントや活動を知ってもらため、広報や情報提供を充実・工夫し、担い手の確保や若い人をはじめとした参加者の幅を広げたい。〈充実〉
- 団体・個人を問わず、日頃からあいさつする関係をつくり、地域のつながりを深めたい。〈新規〉
- 子育て中の人に参加できる機会・場を増やし、継続して活動できるようにしたい。〈充実〉
- 各団体間の連携・交流を深め、それぞれの活動や大きいイベントを盛り上げたい。〈充実〉
- ウォーキングやラジオ体操など、健康づくり活動を充実し、「つながり」づくりを進めたい。〈新規〉

目標2

落ち着いて活動できる
活動拠点を増やしたい

【現状と課題】

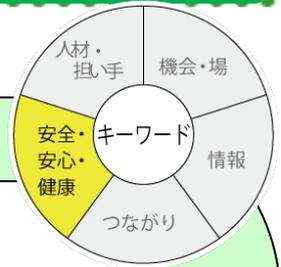
- 地区内に自由に使える活動拠点がほとんどなく、地区センターなども離れている。
- 活動場所や時間が限られてしまい、参加の呼びかけが難しく、地域活動の制約になっている。
- 地域全体に山坂が多く、交通の便も良くないので、身近で参加しやすい場所に拠点を確保する必要がある。
- 地区内には店舗も少ないので、気軽にサロン・カフェがあれば、交流の機会・場ができる。

【具体的な取組】

- 各団体の取組やイベントへの参加を促進し、活動の機会を増やしたい。〈充実〉
- 公施設の整備を目指し、地域が一体となって実現に向けて努力していきたい。〈継続〉
- 自治会館・集会所の相互利用や民間や福祉施設などの空いているスペースの利用促進も引き続き調整していきたい。〈継続〉
- 学校開放などの機会を活用するなど、工夫して地域活動を充実させたい。〈新規〉
- いつでも立ち寄れる交流の場として、交流サロンなどの開設についても検討を進めたい。〈新規〉
- 高齢者・障がい者・子育てなどの地域活動の参加が進むよう、交通手段を充実させたい。〈継続〉

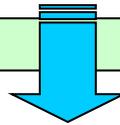
目標3

地域が団結して、防災力を高めたい



【現状と課題】

- 転入者や若い世帯が多いので、防災意識を高めていく必要がある。
- 「防災マップ」作成（平成25年度）を契機に、「いっとき避難場所」を定めるなど、防災の取組に関する機運が高まっている。平成26年度には、連合自治会の防災規約を作成した。
- 連合自治会を中心に自治会や各団体が連携して、防災・防犯に取り組んでいく必要がある。
- 災害時に対応できる人材を確保することが必要である。
- 災害時に備え、支援が必要な人たちを見守る仕組みや体制づくりの検討が必要である。
- 防災・防犯の取組を進めるためには、地域のつながりや団結を高めていく必要がある。



【具体的な取組】

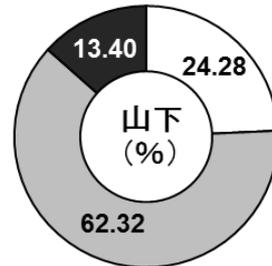
- 連合自治会を中心に、各自治会と各種団体が連携しながら、防災に関する取組を強化したい。〈新規〉
- 「防災マップ」などを活用して、災害に対する備えや「いっとき避難場所」に関する情報を共有して、防災意識を高めていきたい。〈新規〉
- 横浜防災ライセンス講習「資機材取扱リーダー講習会」などへの積極的な参加を促し、災害時に率先して活動できる地域の人材を育成していきたい。〈新規〉
- 地域防災拠点訓練は、災害時を想定した実践的な訓練の場として位置づけ、防災無線などを活用しながら、地域全体で役割を確認しながら取り組みたい。〈新規〉
- 災害時に支援が必要な人の把握に努め、誰がどのように支援していくのか計画が立てられるよう、見守り・支援の仕組み及び体制づくりの検討を進めたい。〈新規〉
- 団体同士の交流や地域行事・小学校での活動等を通じて、顔見知りの関係をつくり、防災・防犯活動の充実につなげたい。〈新規〉

山下地区 地区別計画（平成28年度～平成32年度）

＜地域＞ 西八朔町、北八朔町、小山町、青砥町

緑区の北側に、恩田川と鶴見川に挟まれた形で東西に長く位置し、地区の北西側は青葉区、北側は都筑区に隣接しています。市街化調整区域が多い田園地帯で、丘陵地に市営住宅や戸建の住宅が並んでいます。

山下地域交流センターや山下みどり台小学校コミュニティハウスが活動の拠点となっています。また、特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの福祉施設が多くあります。



山下地区

- 高齢化率（65歳以上）
- 生産年齢人口比率（15～64歳）
- 年少人口比率（0～14歳）

	山下地区	緑区
65歳～	4,021人	38,361人
15～64歳	10,321人	114,942人
0～14歳	2,220人	25,377人
合計	16,562人	178,680人

平成26年（2014年）9月末現在

地区別計画推進策定委員会の開催状況

第1回

平成26年6月26日（木）
19：00～21：00
山下地域交流センター
委員 16名出席
○第2期計画3か年の振り返り
○地域課題を考える会
○今後の取組について

第2回

平成26年11月26日（水）
19：00～21：00
山下地域交流センター
委員 15名出席
○第2期計画について、進捗状況や課題の確認
○第3期計画に向けた取組について

第3回

平成27年6月22日（月）
19：00～21：00
山下地域交流センター
委員 26名出席
○昨年度の振り返り
○第3期計画素案の検討

山下地区の第2期地区別計画では、「地域での『つながり』を大切にするまちづくり」「必要な『情報』が入手しやすいまちづくり」「『防犯・防災』で安心・安全なまちづくり」の3つを目標に、さまざまな取組を推進してきました。スポーツ大会や地域行事、健康づくり活動を通じたつながりづくり、山下連合自治会だよりによる地域情報の共有化等が進められています。

第3期計画では、現在の取組を継続するとともに、さらに充実させ、健康で元気に暮らし続けられる山下地区を目指します。

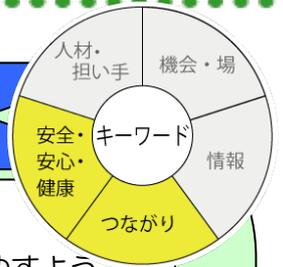


【山下地区 地区別計画推進策定委員】

下記の各団体等の代表者で構成しています。（順不同）

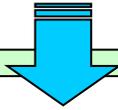
- 連合自治会 ● 単位自治会 ● 地区社会福祉協議会
- 民生委員児童委員協議会 ● 保健活動推進員
- スポーツ推進委員 ● 青少年指導員 ● 消費生活推進員

目標1

地域での「つながり」を大切に、
健康で元気に暮らし続けられるまちづくり

【現状と課題】

- 回覧版はチャームを押して手渡しするなど、あいさつで顔見知りになる機会を増やすよう心掛けています。高齢化が進むなか、日常的な付き合いが大切だと感じています。
- スポーツ大会や地域行事、健康体操や元気づくりステーションなどの健康づくり活動を通じて、参加者同士のつながりが生まれています。一方で、声かけしても活動に参加しない人が心配です。
- 自治会の枠を超えたつながりをつくるため、「山下連合自治会だより」を発行・全戸配布し、地区情報の共有化を図っています。

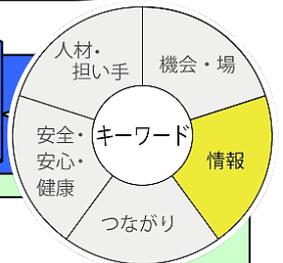


【具体的な取組】

- 日常的な付き合いを大切にし、あいさつで顔見知りを増やします。
- 体育祭やティーボールなど、子どもが参加できる活動が活発であり、この機会をうまく活用して、よりコミュニケーションがとれるよう工夫します。
- ウォーキング、スタンプラリーなど、身近で参加しやすいイベントを企画します。
- 自治会と民生委員児童委員がより連携して、見守り活動を行っていきます。
- 健康づくり活動（元気づくりステーションなど）を継続・充実させ、参加者同士のつながりを広げていきます。また、元気づくりステーションと赤ちゃん教室のコラボレーションも継続し、世代間の交流を図ります。
- 「つながり」は高齢者だけでなく子どもについても大切です。子ども会の活性化や、赤ちゃん教室を卒業した親子が集まれる場所をもっと増やせないかなどを検討していきます。

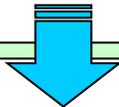
目標2

必要な「情報」が入手しやすいまちづくり



【現状と課題】

- 「山下連合自治会だより」を発行・全戸配布し、地区情報の共有化に取り組んできました。
- 子育て世代は自治会での取組を知らない人も多いと感じます。
- 地区社会福祉協議会の広報誌「笑顔のたより」を創刊し、活動（お楽しみ昼食会や健康教室）を広く周知しています。

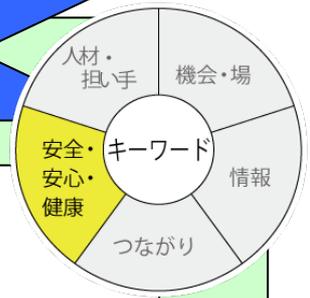


【具体的な取組】

- 「山下連合自治会だより」の内容をさらに充実させて継続して発行します。各自治会の取組や子ども会の情報など、さまざまな情報を掲載して有効活用を図ります。
- うまく運営できている活動など、自治会・各種団体等の情報を地域全体で共有します。
- 地区社会福祉協議会の広報誌「笑顔のたより」の発行を継続します。全戸配布や発行回数の増加を検討し、より活動の周知を図ります。

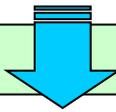
目標3

「防災・防犯」で安心・安全なまちづくり



【現状と課題】

- 2つの地域防災拠点の「防災ささえあいカード」の様式を統一しました。
- 「防災ささえあいカード」を有効活用できるよう検討が必要です。
- 高齢化や老老介護の増加により、一人暮らしでなくても見守りが必要な人が増えています。
- デジタル簡易無線機を導入し、正確な情報の共有化と迅速な伝達に取り組んでいます。
- 大人も子どもも防犯意識を高め、安心して暮らせるまちづくりが必要です。



【具体的な取組】

- 「防災ささえあいカード」の情報を自治会長・消防団・民生委員・児童委員などで共有し、自治会全体で要援護者の把握に努め、有効に活用できるよう検討していきます。
- デジタル簡易無線機を地域のイベントや行事等でも活用し、いざという時に使えるよう備えます。
- デジタル簡易無線機の台数を増やし、情報伝達の迅速化と有効活用を図ります。また、民生委員・児童委員の見守り活動にも活用できるよう、仕組みづくりをすすめます。
- 子どもが安心して暮らせるよう、現在の防犯活動を継続し、地域全体で協力しながらあいさつや声かけをはじめとした見守りをすすめます。

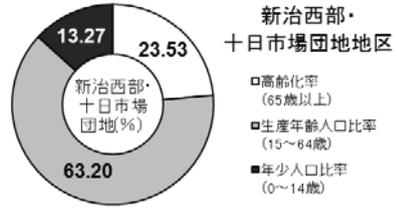


新治西部地区 地区別計画（平成28年度～平成32年度）

＜地域＞新治町、十日市場町(十日市場団地地区を除く)、
長津田みなみ台6・7丁目の一部

緑区の西北に位置し、地区の北は恩田川を境に青葉区に隣接しており、新治町、十日市場町（十日市場団地地区を除く）、長津田みなみ台6丁目の一部（十日市場町自治会）、7丁目の一部（後谷地区）で連合自治会を形成しています。

十日市場駅南側を中心に、公共施設、商業施設、医療機関やマンションなどの集合住宅を中心とした住宅が密集している一方、横浜線北側や新治町には農地や新治市民の森などの緑地も多く残されています。



	新治西部・十日市場団地地区	緑区
65歳～	4,604人	38,361人
15～64歳	12,364人	114,942人
0～14歳	2,596人	25,377人
合計	19,564人	178,680人

平成26年（2014年）9月末現在

※「新治西部地区・十日市場団地地区」の人口データは、新治町、十日市場町及び長津田みなみ台7丁目のデータを集計しています。

地区別計画推進策定委員会の開催状況

第1回

平成26年6月12日(木)
13:30～15:00
十日市場自治会館
推進策定委員24名出席
○第2期3か年の振り返り
○今年度の取組について

地域課題を考える会で課題を抽出(平成26年12月3日)

第2回

平成27年2月4日(水)
13:30～15:00
十日市場自治会館
推進策定委員21名出席
○地域の課題について
○課題への取組について
○新たな計画について(意見交換)

第3回

平成27年6月19日(金)
13:30～15:10
十日市場自治会館
推進策定委員21名出席
○地域の課題について
○課題への取組について
○新たな計画について(意見交換)

第2期計画では、地域での孤立化をなくすための「つながり」づくりと、自治会加入の促進により多くの人に必要な「情報」を届けることを目標として、さまざまな取組を行いました。「つながり」づくりでは、これまでの地域活動を継続する一方、新たな活動を開始し、地域団体が連携するなど工夫をしました。また、自治会広報紙の発行などにより地域の「情報」発信に取り組みました。

第3期計画では、これまでの活動を継続・充実させながら、地域活動の魅力を発信し、より良い「新治西部地区」を目指します。



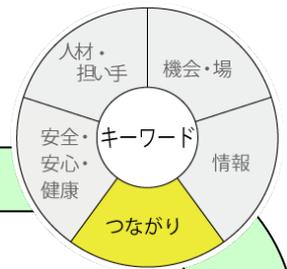
【新治西部地区 地区別計画推進策定委員】

下記の各団体等の代表者で構成しています。(順不同)

- 連合自治会
- 地区社会福祉協議会
- 民生委員児童委員協議会
- 主任児童委員
- 保健活動推進委員
- 小学校
- 中学校
- 小・中学校PTA
- 消防団
- 老人会
- スポーツ推進委員
- 青少年指導員
- 自治会防犯部

目標 1

地域の中での孤立化をなくし みんなの顔が見える環境を目指します

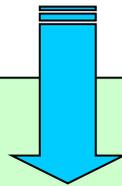


【現状と課題】

- 一人暮らしの高齢者などの孤立化が懸念されています。
- 高齢者や子育て中の方々が、地域と関わるきっかけや地域活動に参加しやすい環境が必要です。
- 隣近所の付き合いが減って、挨拶も少なくなっています。

【すでに取り組んでいる事】(例)

電話や訪問による一人暮らし高齢者の見守り／高齢者を対象としたカラオケ大会・体操教室・会食等／こにちは赤ちゃん訪問／交流サロン／宝探しウォーク／お楽しみ会（映画・抽選会）／地域菜園／小学生の米作り学習／中学生の夏祭りボランティア



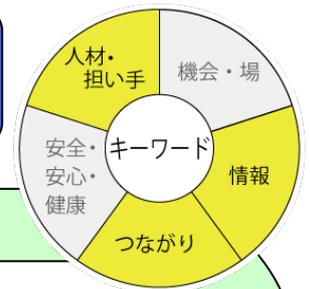
【目標とする姿】

高齢者や子育て世代が孤立せず、地域で生活しています。また、幅広い世代がさまざまな形で地域活動に参加することで、地域で顔の見える関係が生まれ、地域のつながりが深まっています。

【具体的な取組】

- 地域全体で一人暮らし高齢者や子どもたちの見守りを進めます。
- こども会や青少年指導員、スポーツ推進委員等の地域団体が連携して、引き続き、小中学生や子育て中の世代が参加しやすい行事を開催します。
- これまで地域との関わりが薄かった方にも地域活動に参加してもらえるよう地域活動の情報発信や声掛けなどに取り組みます。
- 農地や空き地を活用して、地域のつながりづくりに取り組みます。
- 老人会をはじめ地域団体が学校等と連携することで、多世代交流の機会をつくります。
- 認知症の方が地域で安心して暮らせるよう、地域全体で認知症への理解を深め、見守りを進めます。

目標2

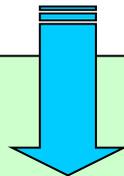
自治会加入を促進し、
地域情報をより多くの人に届けます

【現状と課題】

- 自治会に加入していない人には、地域の行事や地域活動等の情報が十分伝わっていないため、地域への関心も希薄になっています。
- 自治会をはじめとしたさまざまな団体の役員の高齢化が進み、若い担い手が増えていません。

【すでに取り組んでいる事】(例)

自治会広報紙の発行／夏祭り（じゃんけん大会参加券・屋台利用券）／宝探しウォーク／お楽しみ会（映画・抽選会）／お泊りキャンプ／地域防災拠点訓練／災害用のお米の備蓄／防犯パトロール



【目標とする姿】

自治会への加入率が上がり、より多くの皆さんに地域情報が伝わることで、地域の行事や地域活動に参加する人も増えています。また、それをきっかけにして若い担い手も徐々に育っています。

【具体的な取組】

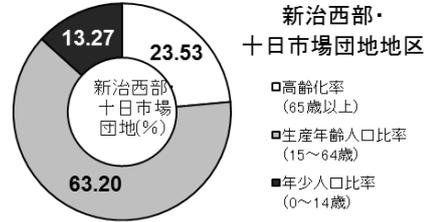
- 自治会の広報紙やホームページを活用し、地域活動の状況や行事の情報などを広くお知らせします。
- 回覧等により、小・中学校や地域ケアプラザ、地区センターの情報を自治会加入者に積極的に発信します。
- 自治会未加入者の多いアパート・マンションを中心に自治会加入を進めます。
- 防犯・防災の取組や、さまざまな行事等を通じて、自治会加入のメリットを訴えていきます。

十日市場団地地区 地区別計画（平成28年度～平成32年）

<地域>十日市場町(十日市場団地地区)

昭和34年から39年にかけて建てられた市営十日市場住宅を中心とした地区です。建物の老朽化に伴い、十日市場ヒルタウンとして平成3年から全面的な建替えを実施し、高層化により人口も増加傾向にあります。ヒルタウンの名称のとおり、丘陵状の地形に計画的に整備されています。

また、「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」の取組の一つとして、民間活力の導入や市有地の有効活用等について検討されています。

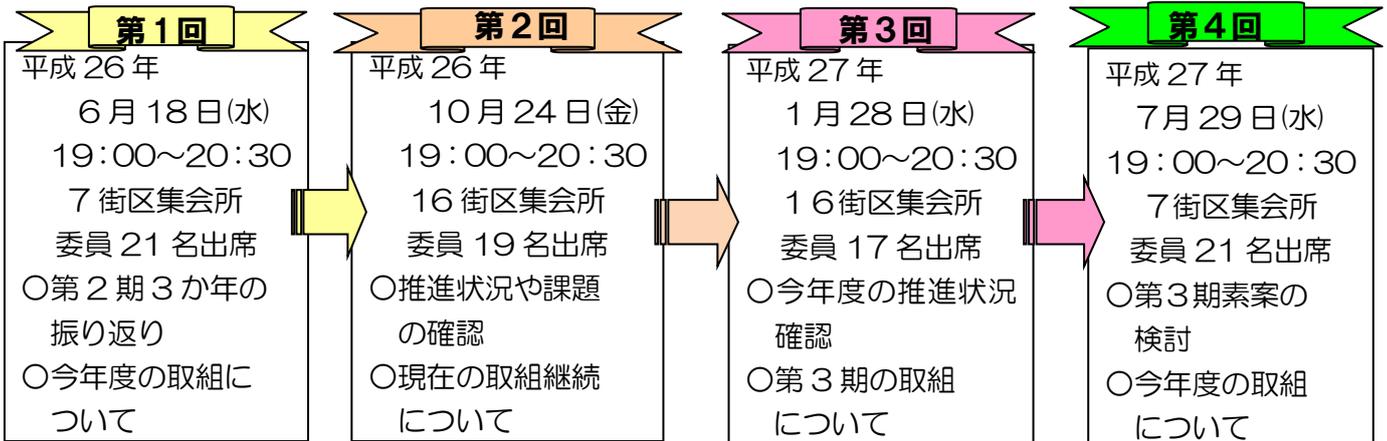


	新治西部・十日市場団地地区	緑区
65歳～	4,604人	38,361人
15～64歳	12,364人	114,942人
0～14歳	2,596人	25,377人
合計	19,564人	178,680人

平成26年(2014年)9月末現在

※「新治西部地区・十日市場団地地区」の人口データは、新治町、十日市場町及び長津田みなみ台7丁目のデータを集計しています。

地区別計画推進策定委員会の開催状況



第2期計画では、目標「地域のつながりを作っていこう!」の実現に向けて、民生委員・児童委員の活動や団地内清掃などの取組を通じた見守りを確認しながら、新たな取組の検討を進めました。

平成24年度からは、委員を増やすとともに、身近な交流の場づくりとして毎月1回の「お茶飲み会」をスタートし、参加者もスタッフも楽しみながら、地域の「つながり」づくりに取り組んできました。

第3期計画では、各団体間の連携や多世代交流を意識しながら、地域の「つながり」を一層深めるとともに、地域の中での「見守り」や「支えあい」等の取組を進め、さらに「いつまでも支えあえる十日市場団地」を目指します。

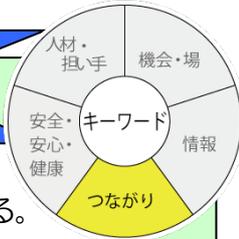


【十日市場団地地区 地区別計画推進策定委員】

下記の各団体等の代表者で構成しています。(順不同)

- 民生委員児童委員協議会
- 連合自治会
- 地区社会福祉協議会
- 中学校
- 子ども会
- 保護司
- 保健活動推進員

目標1

地域が団結して、「つながり」を作り
あらゆる世代の交流を広げよう

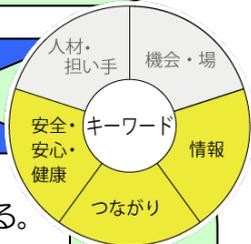
【現状と課題】

- 高齢化が進む中で、地域住民の「交流」や「つながり」がますます大切となってきた。
- 災害など、いざというときに助け合えるような「顔の見える関係」を日頃からつくりたい。
- 核家族化などによる近所付き合いの希薄化や子ども生活力の低下が懸念される。
- イベント等の参加者や担い手を増やしとともに、世代間の交流を広げていきたい。

【具体的な取組】<取組主体>

- 「十日市場団地お茶飲み会」を継続しながら、さらに地域の皆さんの交流を深める。<各団体>
- 地域の情報ツールである「住連通信」を活用して、交流を広げていく。<連合自治会・各団体>
- 地域のさまざまな団体が連携・交流して、行事や取組を通じて、地域を盛り上げていく。<各団体>
- 日ごろから「あいさつ」することを意識して、顔の見える関係づくりを進める。<地域住民・学校>
- 自治会活動をはじめ、老人会や子ども会など、地域活動に参加しやすいよう工夫する。<各団体>
- 清掃活動などの各種活動に誘い合い、参加することで「つながり」のきっかけを作る。<地域住民>
- 子どもたちと高齢者など、多くの世代が交流することで、地域の活動を活性化させる。<各団体>
- 中学生ボランティアの活動の場を広げる。<各団体・学校>
- 地域ケアプラザや地域子育て支援拠点「いっぼ」など、地域の施設とも連携を図る。<各団体>

目標2

連携して、「見守り」を進め
いつまでも支えあえる地域を目指そう

【現状と課題】

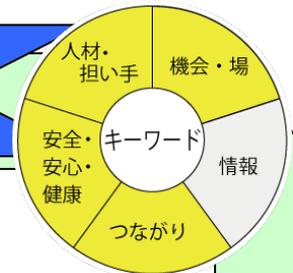
- 高齢化がさらに進んできているので、一人暮らし等の高齢者の孤独死などが心配である。
- 子育て世帯も多いので、養育者が孤立しないように地域で支えることが必要である。
- 孤立死防止のための安否確認などは、地域全体で取り組む必要がある。
- 災害時に支援が必要な人を支援するための仕組みを検討していく必要がある。

【具体的な取組】<取組主体>

- 地域の中で、「手助け」してほしい人とできる人を結びつける仕組みを検討し、取組を実施する。<地区社協・連合自治会>
- 自治会や民生委員・児童委員が協力して、個人情報保護にも留意しながら、「見守る体制」(ネットワーク)づくりを検討していく。<連合自治会・地区民児協・地区社協>
- 「お茶飲み会」、「昼食会」、「清掃活動」などさまざまな機会を安否確認の機会として捉え、多くの人に参加してもらえるよう、隣近所などで声かけを行う。<地域住民>
- 「玄関ポスト」がいっぱいになっていないか様子を見るなど、見守る目を増やしていく。<各自治会・地区民児協>
- 子育て世帯にも、自治会情報やイベント情報をもっと知ってもらおう工夫をし、地域活動に参加してもらって孤立化を防ぐ。<連合自治会・地区民児協・地区社協等>
- 見守りに関するサービスや制度を利用できるよう、周知・啓発を進める。<連合自治会・地区民児協・地区社協等>
- 団地の特徴を踏まえた災害時の支援方法などを検討し、いざという時のための支援体制を作る。<連合自治会・各自治会・各団体>

目標3

健康や交流を意識した取組を進め 地域をもっと元気にしよう



【現状と課題】

- 高齢化が進むなかで、個人の健康管理も大切な要素となってきた。
- 「認知症」は予防も含め、地域全体で理解を深め、取り組んでいく必要がある。
- 自治会活動をはじめ、地域活動全般について、担い手の高齢化や不足が課題となっている。
若い人たちにも参加してもらうための工夫が必要である。
- 地域の人たちが積極的に多世代交流に関わる機会が少ない。

【具体的な取組】<取組主体>

- 「ウォーキング」や「ラジオ体操」など、健康維持や「多世代交流」「つながり」を意識した取組を検討し、実施する。<保健活動推進員・地域住民>
(例) 団地内をめぐるウォーキングイベントの開催、団地内でのラジオ体操の実施など
- さまざまな人たちに「認知症」を知ってもらうため、「寸劇」を取り入れるなど、わかりやすく理解してもらう機会を作る。<地域住民・地域包括支援センター>
(例) 小・中学校や父母などを対象とした「認知症サポーター養成講座」の実施など
- 担い手の確保に向けては、地域活動に参加する人に無理せず楽しんでもらい、協力者を増やしていくことを心掛ける。<各団体>
(例) 自治会と子ども会で連携したイベントの開催
- 集会所などを活用し、多世代交流の機会や場づくりを検討する。<各団体>
(例) 地域住民が子どもたちに話を伝える機会や知識を教える取組など

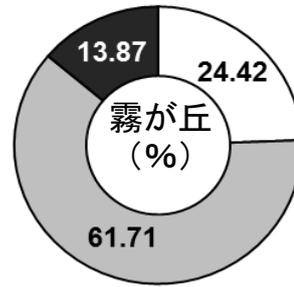
霧が丘地区 地区別計画（平成28年度～平成32年度）

<地域> 霧が丘1～6丁目

緑区の西方に位置し、地区の南側は旭区に隣接しています。昭和54年から日本住宅公団(現在の霧が丘グリーンタウン)の入居が始まり、昭和56年に十日市場町から区域変更された比較的新しい街です。

街路樹、歩行者専用道路など(通称「赤道」、計画的に整備されていることが特徴的で、緑豊かな公園が点在し、恵まれた自然環境は南側に隣接する新治市民の森に続いています。

平成20年に横浜市初の小学校跡の建物を活用した複合施設「霧の里」が開所し、住民の活動の場として定着してきています。



霧が丘地区

- 高齢化率 (65歳以上)
- 生産年齢人口比率 (15～64歳)
- 年少人口比率 (0～14歳)

	霧が丘地区	緑区
65歳～	2,867人	38,361人
15～64歳	7,245人	114,942人
0～14歳	1,628人	25,377人
合計	11,740人	178,680人

平成26年(2014年)9月末現在

地区別計画推進策定委員会の開催状況

第1回

平成26年
6月28日(土)
16:00～17:30
霧の里
委員18名出席
○第2期計画3か年の振り返り
○今後の取組について

第2回

平成26年
9月27日(土)
17:00～18:30
霧の里
委員20名出席
○推進状況や課題の確認
○第3期計画に向けた取組について

第3回

平成26年
12月20日(土)
17:00～18:30
霧の里
委員20名出席
○第3期計画の目標や具体的取組について
→第3期素案たたき台の作成

第4回

平成27年
6月19日(金)
18:30～20:00
霧の里
委員15名出席
○昨年度の振り返り
○第3期計画素案の検討

霧が丘地区では、「防犯、防災、教育日本一」を目標に、第2期霧が丘地区別計画を推進してきました。目標の推進に向け、防災訓練や防犯パトロール、大運動会等を通じた世代間交流など、さまざまな取組を行っています。第3期霧が丘地区別計画の策定にあたり、霧が丘地区別計画推進策定委員会の中で第2期計画の振り返りを行い、今後の課題として、取組の継続、見守り活動等の担い手の確保があげられました。第3期霧が丘地区別計画では、第2期計画の取組を着実に推進するとともに、新たに地域の見守り活動を強化します。

【霧が丘地区 地区別計画推進策定委員】

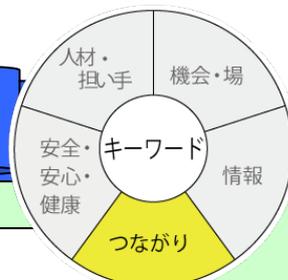
下記の各団体等の代表者で構成しています。(順不同)

- 連合自治会
- 単自治会
- スポーツ推進委員
- 青少年指導員
- 民生委員児童委員協議会
- 保健活動推進員
- 防犯事務局
- 地域防災拠点運営委員会
- 小・中学校PTA



目標1

「地域でのつながり」を大切にするまちづくり



【現状と課題】

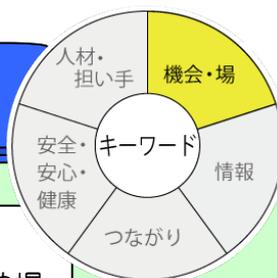
- 盆踊り大会や大運動会、どんど焼きなどの行事を通じて、住民同士のつながりが生まれています。こうした行事を続けていくため、次の世代の担い手を確保することが課題です。
- 近年急増している外国人住民との相互理解を図っています。

【具体的な取組】

- 第2期計画で実施している取組、活動を継続していきます。(自治会、地域ケアプラザ、地区社会福祉協議会(以下「地区社協」という)など)
- 乳幼児から大人まで参加できる行事を行い、地域活動を次世代へ繋いでいきます。(各実施団体)
→各団体が連携して開催するイベントの継続や、防災訓練の際に保育園や学校へ呼びかけて保護者に意識を持って携わってもらうなど。
- 40代、50代の人たちとさまざまな行事の中で顔見知りになり、次の行事にも誘うなど積極的に声をかけます。(自治会)
- 小・中学生の保護者世代が行事に参加できるよう地域イベントなどの情報を伝えます。(PTA)
- 新しく引っ越してきた住民に、地域情報や行事等を案内します。また、行事等のチラシを配布する際には、直接手渡しするよう心掛けます。(自治会、各団体)
- 外国人住民との相互理解を促進するため、意識して積極的にあいさつを行ったり、英語版の案内を作成するなどの取組を継続していきます。(自治会)

目標2

みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり



【現状と課題】

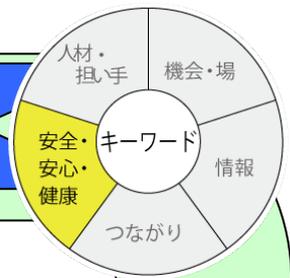
会食会や小学校での授業支援など、それぞれの能力を活かしながら活動できる機会や場を作ってきました。地域のなかで定着してきましたが、若い世代の参加が少ないことが課題です。

【具体的な取組】

- 第2期計画で実施している取組、活動を継続していきます。(自治会、地域ケアプラザ、地区社協、学校など)
- 若い世代が参加しやすいレクリエーションの場を設けます。(自治会)
- 若い世代の自治会(役員)への加入促進を図ります。(自治会)
- 可能なものは活動日を平日から土日に変更するなど、若い世代が参加しやすい工夫をしていきます。(自治会)

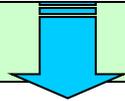
目標3

「安心・安全・健康」のまちづくり



【現状と課題】

- 毎月実施している健康チェックの取組は定着してきており、取組の継続が望まれています。また、霧が丘公園等でのラジオ体操も徐々に広がっており、地域住民の健康づくりが進んでいます。
- 地域住民による、防災訓練や防犯パトロールに力を入れていますが、活動継続のため、さらに多くの人に参加してもらいたいです。
- 誰もが安心して地域で暮らしていけるよう、地域で活動する団体が集まって「霧が丘見守りネットワーク」を平成26年度に立ち上げました。



【具体的な取組】

- 第2期計画で実施している健康チェックやラジオ体操、防災訓練、防犯パトロール、配食サービスなどの取組・活動を継続していきます。(自治会、地域ケアプラザ、保健活動推進員、地区社協など)
- 健康づくりの視点からも防犯パトロールの活動をPRしていき、自治会と各団体が連携して活動を支援します。(自治会、各実施団体)
- 健康チェックの参加者がさらに増えるように、取組の周知を図ります。(地域ケアプラザ、保健活動推進員)
- 防災や防犯、健康づくりに関する意識啓発のための講演会等を実施します。(各実施団体)
- 「霧が丘見守りネットワーク」を中心に、要援護者の日常的見守りができる体制づくりを進めます。(自治会・地区社協・民生委員・児童委員・各種ボランティア団体、地域ケアプラザ等)

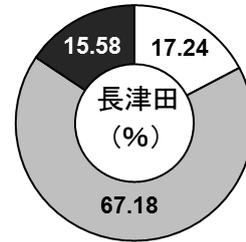


長津田地区 地区別計画（平成28年度～平成32年度）

＜地域＞長津田1～7丁目、長津田町、いぶき野、
長津田みなみ台1～5丁目、6・7丁目の一部

緑区の最西端・最北端に位置し、南北に広い地区です。西は東京都町田市、北は青葉区、南は瀬谷区、南東は旭区に隣接しています。区内で最も広く、人口、世帯数ともに最大となっています。

近年、地区の東西を貫いている国道246号線東側、長津田みなみ台の大規模開発に伴い、大型商業施設、大規模マンション等が増加し、転入人口が増加しています。また、駅北口地区市街地再開発により、都市型住宅等の整備も進められており、駅周辺に保育施設が多くあります。



長津田地区

- 高齢化率 (65歳以上)
- 生産年齢人口比率 (15～64歳)
- 年少人口比率 (0～14歳)

	長津田	緑区
65歳～	6,313人	38,361人
15～64歳	24,601人	114,942人
0～14歳	5,707人	25,377人
合計	36,621人	178,680人

平成26年（2014年）9月末現在

※長津田みなみ台7丁目のデータは、新治西部地区・十日市場団地地区に集計しています。

地区別計画推進策定委員会の開催状況

第1回

平成26年6月14日（土）
13:00～15:00
長津田スカイハイツ第2集会所
委員27名出席
○第2期3か年の振り返り
○今年度の取組について話し合い

第2回

平成26年11月22日（土）
9:30～11:30
長津田スカイハイツ第2集会所
委員23名出席
○今年度・次年度の取組について
○第3期計画の目標設定
(5年後の長津田地区のあるべき姿)

第3回

平成27年6月13日（土）
13:30～11:30
長津田スカイハイツ第2集会所
委員26名出席
○第3期計画の素案確認・意見交換
○取組報告など

長津田地区では、「自治会活動をわかりやすく」、「あいさつできる地域づくり」、「防災ささえあいカードの活用検討」、「ボランティア育成」、「認知症の人や家族が暮らしやすい地域づくり」を目標に推進してきました。目標推進に向け、「黄色いバンダナ等の活用」や「認知症講演会」、「新聞販売店と連携した見守り活動」などさまざまな取組が行われています。

新たな課題として、障がいのある人への理解などがあげられました。第3期長津田地区別計画では第2期計画をベースに、「障がいのある人」についても目標に加えました。

【長津田地区 地区別計画推進策定委員】

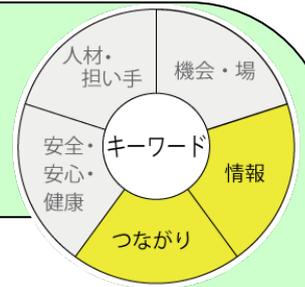
下記の各団体等の代表者で構成しています。（順不同）

- 自治連合会 ●地区社会福祉協議会 ●青少年指導員協議会
- 民生委員児童委員協議会 ●保健活動推進員 ●家庭防災員
- 緑消防団第4分団 ●緑区心身障害児者福祉団体連絡協議会
- 友愛活動員 ●前地区別計画策定委員 ●幼稚園・保育園・小・中学校



目標1

地域情報の発信と共有をすすめます



【現状と課題】

- 回覧などの印刷物を、見やすく分かりやすくするための工夫をしました。
- 自治会清掃などの活動に参加してもらい、自治会活動を知ってもらいました。
- 各自治会の取組を報告し合い、良い活動事例を共有しました。

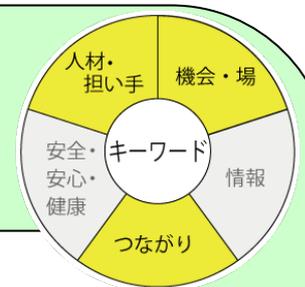


【具体的な取組】

- 自治会の回覧物をさらに分かりやすくし、広報の発行や掲示板の活用などに取り組みます。
- さまざまな世代に自治会活動を情報提供することで、気軽に地域の行事や活動に参加できるようにします。

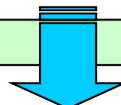


目標2

若い人も高齢者も活躍できる
地域づくりをすすめます

【現状と課題】

- 隣近所の声かけや、老人会の会員が散歩で子どもの通学の見守りをおこない、大人が率先してあいさつをしました。
- 普段から隣近所の付き合いを深め、地域の防犯・防災意識を高めました。
- おまつりなどで顔の見える関係をつくり、若い世代も活動に参加できるようにしていくことが必要です。

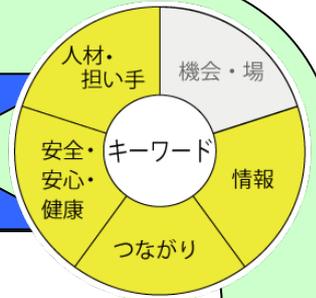


【具体的な取組】

- 楽しい遊びを取り入れるなど工夫することで、若い世代が参加しやすい自治会活動を行います。さらに、さまざまな世代の活躍の機会と場を広げます。
- 引き続き、高齢者による通学時の見守りなどで、地域で顔見知りを増やします。
- 多世代型「向こう三軒両隣」を実現します。

目標3

日頃の見守りから 「いざ」という時の支えあいにつなげます



【現状と課題】

- 単身高齢者等に「ささえあいカード」や「防災グッズ」、「黄色いバンダナ」を配布し、防災訓練の時に活用しました。
- 地区内の新聞4社の販売店と自治連合会等が地域の見守り活動の協定を結び、新聞受けに新聞がたまっているなど異変に気付いた際の緊急連絡の方法を決めました。
- 一人暮らしの障がい者も、緊急連絡先等を伝えられるキーパーソンづくりが大切です。

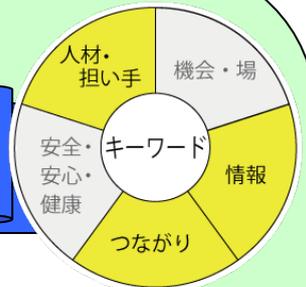
【具体的な取組】

- 日常的な見守りをすすめるとともに、災害時の備えや支援の必要な方への備えについて、多くの方に知ってもらいます。
- 見守りの支援者をさらに増やしていきます。
- 要援護者支援などは、自治会の班長・組長が中心となり進めていきます。



目標4

認知症の人も障がいのある人も、 その家族も暮らしやすい地域づくりをすすめます



【現状と課題】

- 認知症普及啓発講演会や認知症サポーター養成講座をおこないました。
- 認知症の発症を遅らせる予防活動も大切です。認知症の人も、障がいのある人も、さらに理解者を増やし、地域で一緒に過ごしていけるようにします。

【具体的な取組】

- 小・中学校の他、さまざまな場で認知症サポーター養成講座を行い、見守りできる人を増やします。
- 地元の障がい児者支援施設との交流や、発達障がいのある子どもの親などへの情報発信を行い、支援の輪をひろげます。